

2022年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

1 調査回答者

2年次 60名 （調査対象：66名 回答率：90.9%）

2 調査結果

1) 満足度調査

総合的な満足度（「満足」＋「やや満足」）：97%

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	1人 2%	18人 30%	41人 68%	0人 0%	60人
	授業	0人 0%	1人 2%	22人 37%	37人 62%	0人 0%	60人
	授業科目が豊富で充実していた	0人 0%	1人 2%	13人 22%	46人 77%	0人 0%	60人
	自分の将来の目標や適性にあわせて科目を自由に選べるのがよかった	0人 0%	0人 0%	8人 13%	52人 87%	0人 0%	60人
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	0人 0%	4人 7%	17人 28%	39人 65%	0人 0%	60人
	入学前に期待したとおり(または期待以上)の授業や指導を受けられた	1人 2%	3人 5%	18人 30%	38人 63%	0人 0%	60人
学生生活	教員のサポート体制	1人 2%	2人 3%	17人 28%	40人 67%	0人 0%	60人
	職員のサポート体制	0人 0%	1人 2%	21人 35%	38人 63%	0人 0%	60人
	チューターのサポート体制	1人 2%	1人 2%	12人 20%	46人 77%	0人 0%	60人
	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった	0人 0%	1人 2%	8人 13%	51人 85%	0人 0%	60人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	0人 0%	0人 0%	14人 23%	46人 77%	0人 0%	60人
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ	0人 0%	1人 2%	15人 25%	44人 73%	0人 0%	60人
	コミュニティ生活学科に入学してよかった	0人 0%	1人 2%	15人 25%	44人 73%	0人 0%	60人
	入学してきた時よりも成長した	0人 0%	2人 3%	16人 27%	42人 70%	0人 0%	60人
コロナ対応に係るサポート体制	5人 8%	9人 15%	17人 28%	29人 48%	0人 0%	60人	
キャリアアップ	就職支援体制	0人 0%	6人 10%	23人 38%	31人 52%	0人 0%	60人
	資格取得支援体制	0人 0%	1人 2%	20人 33%	39人 65%	0人 0%	60人
自治会活動	大学祭	2人 3%	9人 15%	29人 48%	20人 33%	0人 0%	60人
	スポーツ大会	3人 5%	7人 12%	29人 48%	21人 35%	0人 0%	60人
	自治会活動全般	1人 2%	7人 12%	30人 50%	22人 37%	0人 0%	60人
施設	図書館	0人 0%	4人 7%	20人 33%	36人 60%	0人 0%	60人
	食堂	0人 0%	3人 5%	21人 35%	36人 60%	0人 0%	60人
	保健室	0人 0%	1人 2%	20人 33%	39人 65%	0人 0%	60人
	学生相談室	0人 0%	1人 2%	25人 42%	34人 57%	0人 0%	60人
	施設や設備全般	1人 2%	5人 8%	27人 45%	27人 45%	0人 0%	60人
総合	総合的に学生生活に満足していますか?	1人 2%	1人 2%	16人 27%	42人 70%	0人 0%	60人

※「その他」は、無回答だったものです。

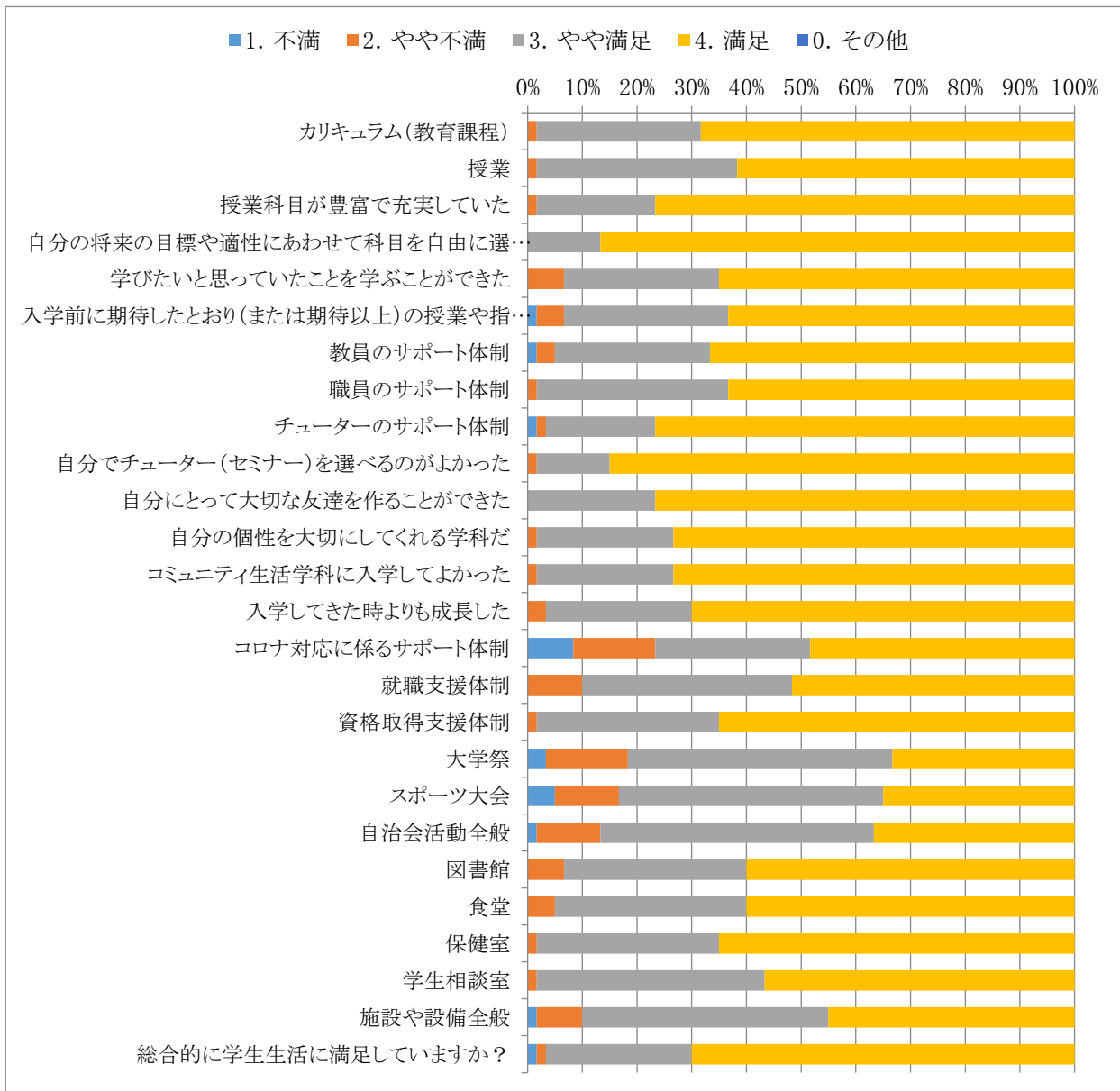
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった		2. あまり身に付かなかった		3. やや身に付いた		4. 身に付いた		0. その他		計
専門的な知識や技術を身につけることができた	0人	0%	2人	3%	22人	37%	36人	60%	0人	0%	60人
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた	0人	0%	2人	3%	18人	30%	40人	67%	0人	0%	60人
人と積極的にかかわれるようになった	0人	0%	4人	7%	20人	33%	36人	60%	0人	0%	60人
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった	0人	0%	1人	2%	20人	33%	39人	65%	0人	0%	60人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0人	0%	3人	5%	18人	30%	39人	65%	0人	0%	60人
短大生活を通して精神的に成長した	0人	0%	3人	5%	22人	37%	35人	58%	0人	0%	60人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0人	0%	5人	8%	17人	28%	38人	63%	0人	0%	60人

※「その他」は、無回答だったものです。

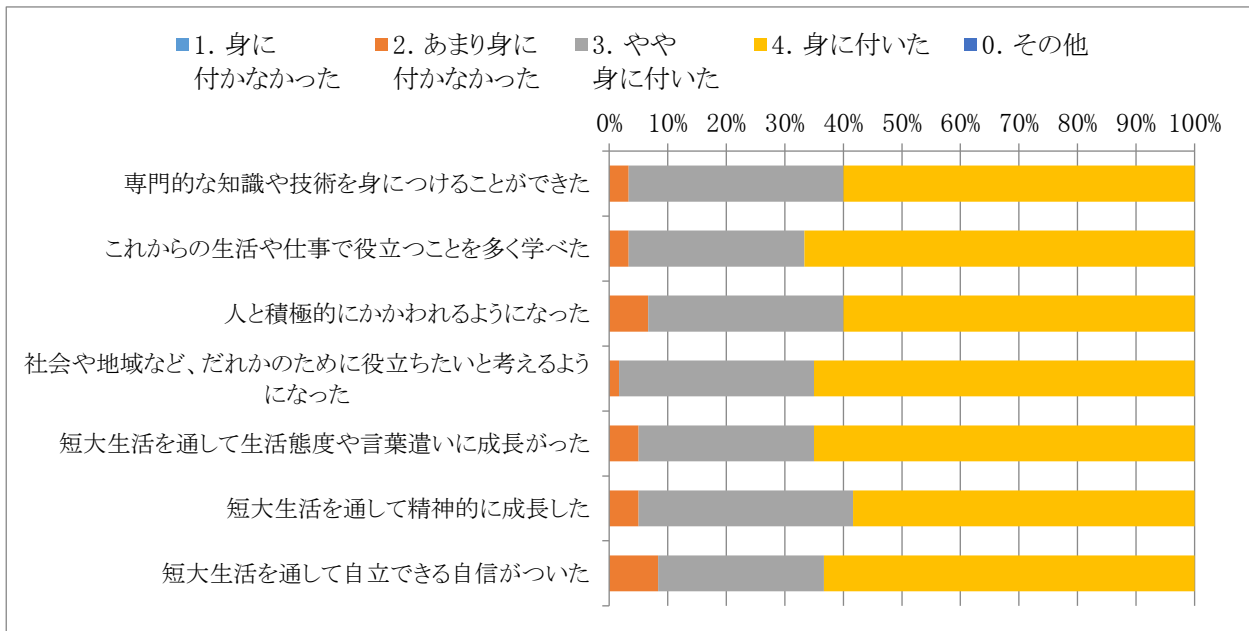
3 グラフ

1) 満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2) 自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

① 満足度調査については、満足の割合が高い項目は以下の8項目だった。

「授業科目が豊富で充実していた」77%、「自分の将来の目標や適性に合わせて科目を自由に選べるのが良かった」87%、「チューターのサポート体制」77%、「自分でチューター(セミナー)を選べるのが良かった」85%、「自分の個性を大切にしてくれる学科だ」73%、「コミュニティ生活学科に入学してよかった」73%、「入学してきた時よりも成長した」70%、「総合的に学生生活に満足していますか?」70%。「総合的な満足度は」1年次終了時期に比べて、1年間で9%高くなった。

② 課題としては、「就職支援体制」にやや不満と答えた学生が16%と高かったことがあげられる。

(2) 要因分析

本学科はオープンキャンパスや入試説明会において、学科の特徴や学びの説明を聞いて入学してきた学生が大半を占めている。そうした学科の特性が学ぶ側の学生に理解され、期待される学びが実践できた2年間の評価だと考える。一方、「コロナ対応に係るサポート体制」には23%が不満と回答していた。欠席扱いとなることに要因があったと考えられる。また、「就職支援体制」「検定取得」については、チューターのサポートをより求める意見があった。

(3) 本年度の対策

引き続き、学生とのコミュニケーションを丁寧にとることを心掛ける。夢カルテを生かした「学習面」「生活面」の身近な目標達成を半年に1回振り返っていくことを踏まえ達成感や満足感を味わう機会をつくる。日々の授業で学びの充実を実感できるよう授業を工夫していく。1年生の時期から、チューターによる個人面談の時間などで就職について話す機会を増やしていくことで就職支援体制への不安を解決していきたいと思う。

2) 自己点検のまとめ

- ① 自己点検については、「身についた」の割合が高い項目は以下の3項目だった。「これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた」67%、「社会や地域など誰かのために役立ちたいと考えるようになった」65%「短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった」65%。
- ② 1年次の調査と比較するとすべての項目で満足の割合が高くなった。特に、「人と積極的に関われるようになった」60%、「短大生活を通して自立できる自信がついた」63%と「満足」を選んだ割合が高くなっていた。2年生に対面授業を中心とした体制を進めた1年間を終え、全体の満足度が上がったのは、チューターのサポート体制が反映される学生生活の満足度の高さと2年間で何ができるようになったかの指標となる自己点検評価の高さによるものと考えられる。

2022年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

1 調査回答者

2年次 37名 （調査対象：38名 回答率：97.4%）

2 調査結果

1) 満足度調査

総合的な満足度（「満足」＋「やや満足」）：89%

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	0人 0%	17人 46%	20人 54%	0人 0%	37人
	授業	0人 0%	0人 0%	19人 51%	18人 49%	0人 0%	37人
	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	0人 0%	4人 11%	16人 43%	17人 46%	0人 0%	37人
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	0人 0%	4人 11%	14人 38%	19人 51%	0人 0%	37人
学生生活	教員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	10人 27%	27人 73%	0人 0%	37人
	職員のサポート体制	0人 0%	0人 0%	10人 27%	27人 73%	0人 0%	37人
	コロナ対応に係るサポート体制	2人 5%	6人 16%	10人 27%	19人 51%	0人 0%	37人
キャリアアップ	就職支援体制	0人 0%	2人 5%	13人 35%	22人 59%	0人 0%	37人
	資格取得支援体制	0人 0%	0人 0%	13人 35%	24人 65%	0人 0%	37人
自治会活動	大学祭	1人 3%	7人 19%	15人 41%	14人 38%	0人 0%	37人
	スポーツ大会	4人 11%	12人 32%	11人 30%	10人 27%	0人 0%	37人
	自治会活動全般	0人 0%	1人 3%	17人 46%	19人 51%	0人 0%	37人
施設	図書館	0人 0%	1人 3%	12人 32%	24人 65%	0人 0%	37人
	食堂	1人 3%	2人 5%	16人 43%	18人 49%	0人 0%	37人
	保健室	0人 0%	1人 3%	16人 43%	20人 54%	0人 0%	37人
	学生相談室	0人 0%	1人 3%	18人 49%	18人 49%	0人 0%	37人
	施設や設備全般	1人 3%	4人 11%	18人 49%	14人 38%	0人 0%	37人
総合	総合的に学生生活に満足していますか?	2人 5%	2人 5%	18人 49%	15人 41%	0人 0%	37人

※「その他」は、無回答だったものです。

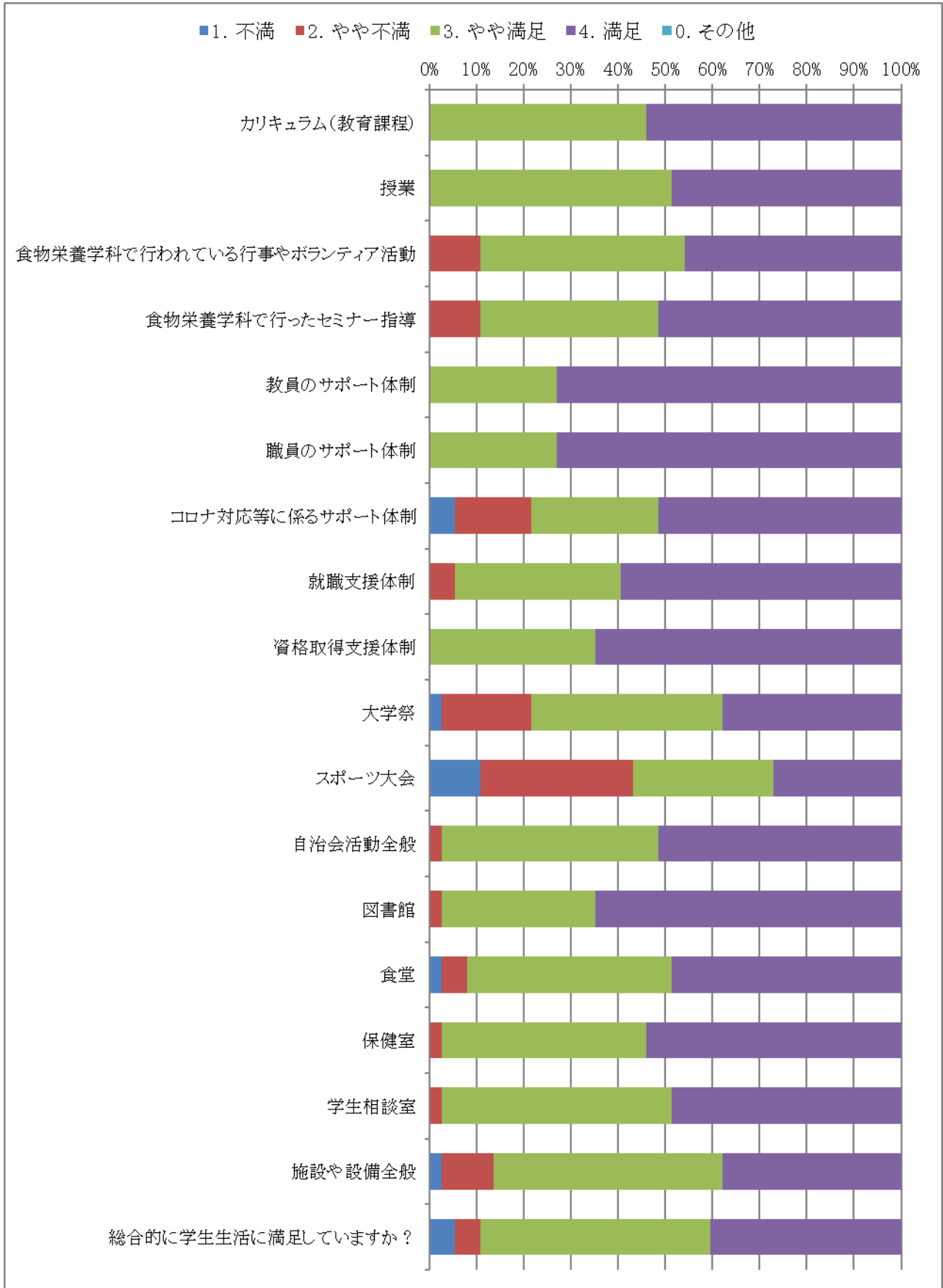
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身につけることができた	0人 0%	1人 3%	15人 41%	21人 57%	0人 0%	37人
食物栄養学科の1年間で調理技術が向上した	0人 0%	0人 0%	14人 38%	23人 62%	0人 0%	37人
対象者に合った献立作成や調理、栄養指導ができるようになった	0人 0%	2人 5%	20人 54%	15人 41%	0人 0%	37人
自らの食生活を振り返り、自己評価することができるようになった	0人 0%	1人 3%	12人 32%	24人 65%	0人 0%	37人
短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた	0人 0%	2人 5%	18人 49%	17人 46%	0人 0%	37人

※「その他」は、無回答だったものです。

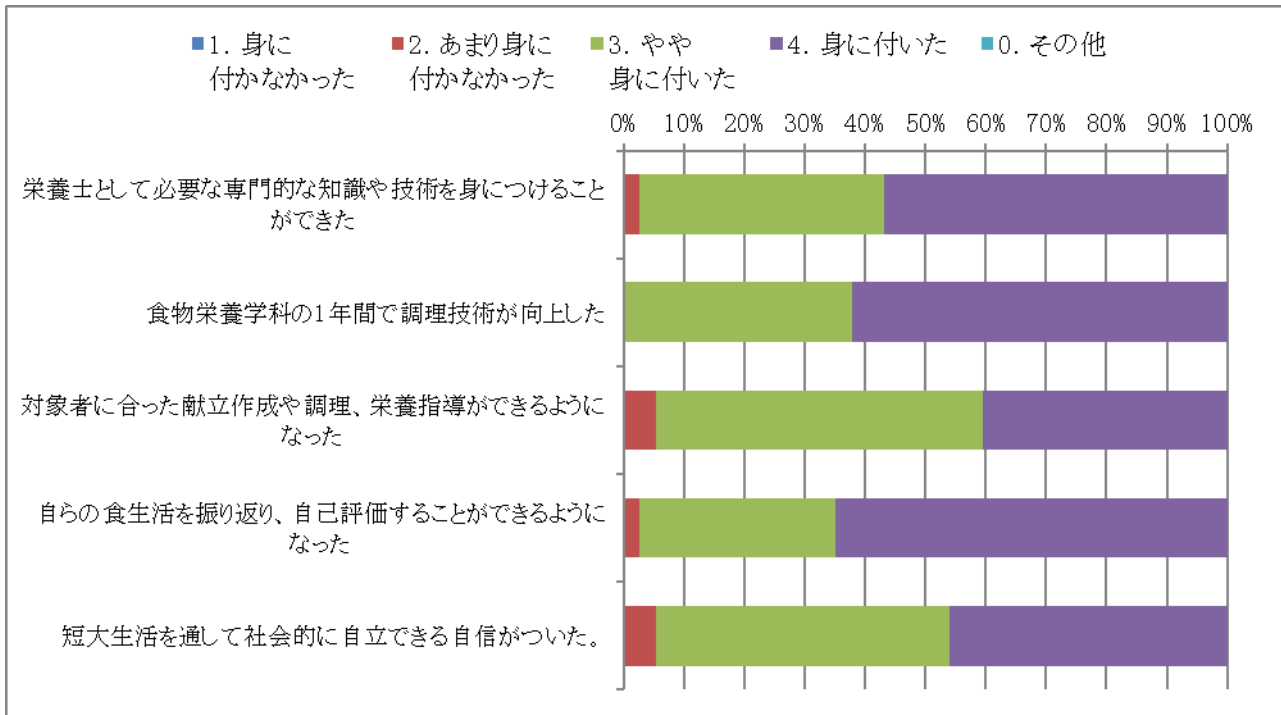
3 グラフ

1) 満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2) 自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

今回の調査は6領域、18項目について行われた。

「教務」領域についての項目では、「満足」または「やや満足」を回答した者は、カリキュラムや授業において100%、学科の行事やボランティア活動では90%であった。また、セミナー指導では87%であり、「やや不満」が13%であり、セミナーでの学生指導に課題が見られた。

「学生生活」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、教員のサポート体制及び職員のサポート体制は100%、コロナ対応に係るサポート体制は80%であった。コロナ対応のサポート体制については「不満」または「やや不満」が20%であった。

「キャリアアップ」領域の2項目については、「満足」または「やや満足」と回答した者は就職支援体制が95%、資格取得体制が100%であった。

「自治会活動」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、大学祭が79%、スポーツ大会が59%、自治会活動全般は97%であった。

「施設」領域では、「満足」または「やや満足」と回答した者は、図書館が98%、保健室と学生相談室が97%、食堂は92%、施設や設備全般は87%であった。

総合的な満足度については、学科が設定している「満足」「やや満足」90%以上に対して、今回の調査結果では、90%であり、目標に達していた。

(2) 要因分析

対象学年は、入学当初からコロナ禍の中にあり、主に対面授業で実施し、一部オンライン授業を活用し、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら学生生活を過ごした。

「教務」領域の授業について、満足度が高かったのは、多くの授業が対面で実施できたことが要因と考えられる。セミナー指導についても多くの学生が満足しており、自分が選択したセミナーでの活動が充実していたものと考えられる。

「学生生活」領域では、教員やチューターによるサポート体制は満足していたが、食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。その一方で、コロナ対応に係るサポート体制については、不満を感じる者もあり、対応に課題が残った。

「キャリアアップ」領域の満足度が高い評価であったことは、学科とキャリアセンターとの連携により、学生の進路決定率が100%であることから、学生に寄り添った進路支援ができていたことがわかる。

「自治会活動」領域については、本年度は大学祭やスポーツ大会が実施できたため、満足と考えた学生も多かった。しかしながら、大学祭は学生のみでの参加制限や食物栄養学科の活動等ができなかったことなどが「不満」「やや不満」となった要因と思われる。また、スポーツ大会については、開催日が2年生の校外実習の日と重なったため、校外実習を優先する都合により、スポーツ大会でのチーム編成ができず、参加できなかったことが不満の要因となったと考える。

「施設」領域については、学生のニーズに対応して、図書館や保健室、学生相談室、食堂などの満足度評価が高かった。一方で、施設や設備全般については、実験や実習で使用していた教室の施設環境や設備・備品の老朽化などにより、満足度がやや低い評価になったものとする。

総合的な満足度は、目標の90%以上であり、コロナ禍の中での学生生活であっても、楽しい学生生活を過ごせたことにより、高い満足度に繋がったものとする。

(3) 本年度の対策

コロナ禍での学生生活が続くと思われるが、さらに授業を充実させる必要性を感じている。対面授業を充実させるとともに、オンライン授業も想定しながら、授業内容の充実を図りたい。

セミナー&チューター制を活用して、引き続き、学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学業や学生生活、進路支援などを行い、満足度の向上に努めたい。

2) 自己点検のまとめ

自己点検の5項目に関しては、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」とすると、すべての項目において、94~100%が「身に付いた」と回答していた。特に、「1年間で調理技術が向上した」は100%であった。いずれの項目も、1年次の調査結果よりも、評価が高くなっており、2年次の学生生活で自分の成長を実感できていることがわかる。

2022年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

1 調査回答者

2年次 67名 （調査対象：72名 回答率：93.1%）

2 調査結果

1) 満足度調査

総合的な満足度（「満足」＋「やや満足」）：90%

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0人 0%	4人 6%	31人 46%	32人 48%	0人 0%	67人
	授業	0人 0%	8人 12%	35人 52%	24人 36%	0人 0%	67人
	授業科目が充実していた	0人 0%	3人 4%	39人 58%	25人 37%	0人 0%	67人
	ピアレッスンで自分の力を伸ばすことができた	0人 0%	1人 1%	29人 43%	37人 55%	0人 0%	67人
	教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた	0人 0%	2人 3%	20人 30%	45人 67%	0人 0%	67人
	運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた	0人 0%	1人 1%	31人 46%	35人 52%	0人 0%	67人
	入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた	0人 0%	5人 7%	36人 54%	26人 39%	0人 0%	67人
学生生活	教員のサポート体制	1人 1%	2人 3%	36人 54%	28人 42%	0人 0%	67人
	職員のサポート体制	0人 0%	2人 3%	35人 52%	30人 45%	0人 0%	67人
	チューターのサポート体制	0人 0%	0人 0%	22人 33%	45人 67%	0人 0%	67人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	2人 3%	1人 1%	14人 21%	50人 75%	0人 0%	67人
	保育学科に入学してよかった	1人 1%	3人 4%	22人 33%	41人 61%	0人 0%	67人
	コロナ対応等に係るサポート体制	15人 22%	12人 18%	19人 28%	21人 31%	0人 0%	67人
キャリアアップ	就職支援体制	1人 1%	2人 3%	25人 37%	39人 58%	0人 0%	67人
	資格取得支援体制	0人 0%	3人 4%	20人 30%	44人 66%	0人 0%	67人
自治会活動	大学祭	3人 4%	11人 16%	30人 45%	23人 34%	0人 0%	67人
	スポーツ大会	4人 6%	12人 18%	30人 45%	21人 31%	0人 0%	67人
	自治会活動全般	2人 3%	12人 18%	33人 49%	20人 30%	0人 0%	67人
施設	図書館	2人 3%	0人 0%	23人 34%	42人 63%	0人 0%	67人
	食堂	0人 0%	5人 7%	22人 33%	40人 60%	0人 0%	67人
	保健室	0人 0%	2人 3%	25人 37%	40人 60%	0人 0%	67人
	学生相談室	3人 4%	0人 0%	26人 39%	38人 57%	0人 0%	67人
	施設や設備全般	2人 3%	9人 13%	29人 43%	27人 40%	0人 0%	67人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2人 3%	5人 7%	28人 42%	32人 48%	0人 0%	67人

※「その他」は、無回答だったものです。

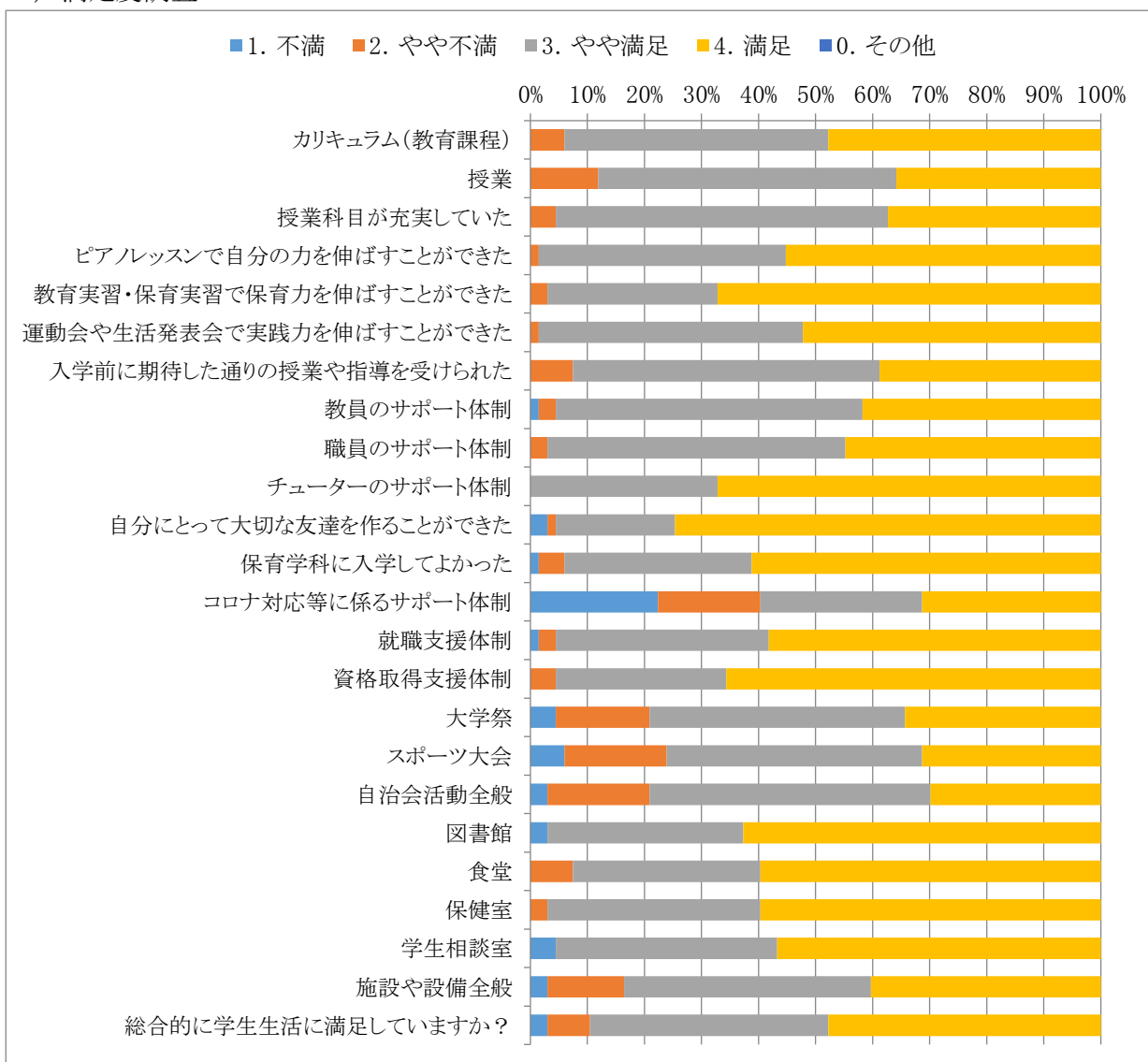
2) 自己点検

項目	1. 身に付かなかった		2. あまり身に付かなかった		3. やや身に付いた		4. 身に付いた		0. その他		計
短大生活を通して専門的な知識や技術を身につけることができた	0人	0%	1人	1%	34人	51%	32人	48%	0人	0%	67人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0人	0%	3人	4%	30人	45%	34人	51%	0人	0%	67人
短大生活を通して精神的に成長した	0人	0%	3人	4%	35人	52%	29人	43%	0人	0%	67人
短大生活を通して自立できる自信がいった	0人	0%	5人	7%	34人	51%	28人	42%	0人	0%	67人
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった	0人	0%	5人	7%	33人	49%	29人	43%	0人	0%	67人
チームワークを大切にすることができるようになった	0人	0%	1人	1%	29人	43%	37人	55%	0人	0%	67人
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった	1人	1%	1人	1%	24人	36%	41人	61%	0人	0%	67人
社会や地域など、誰かのために役立ちたいと考えるようになった	1人	1%	1人	1%	24人	36%	41人	61%	0人	0%	67人

※「その他」は、無回答だったものです。

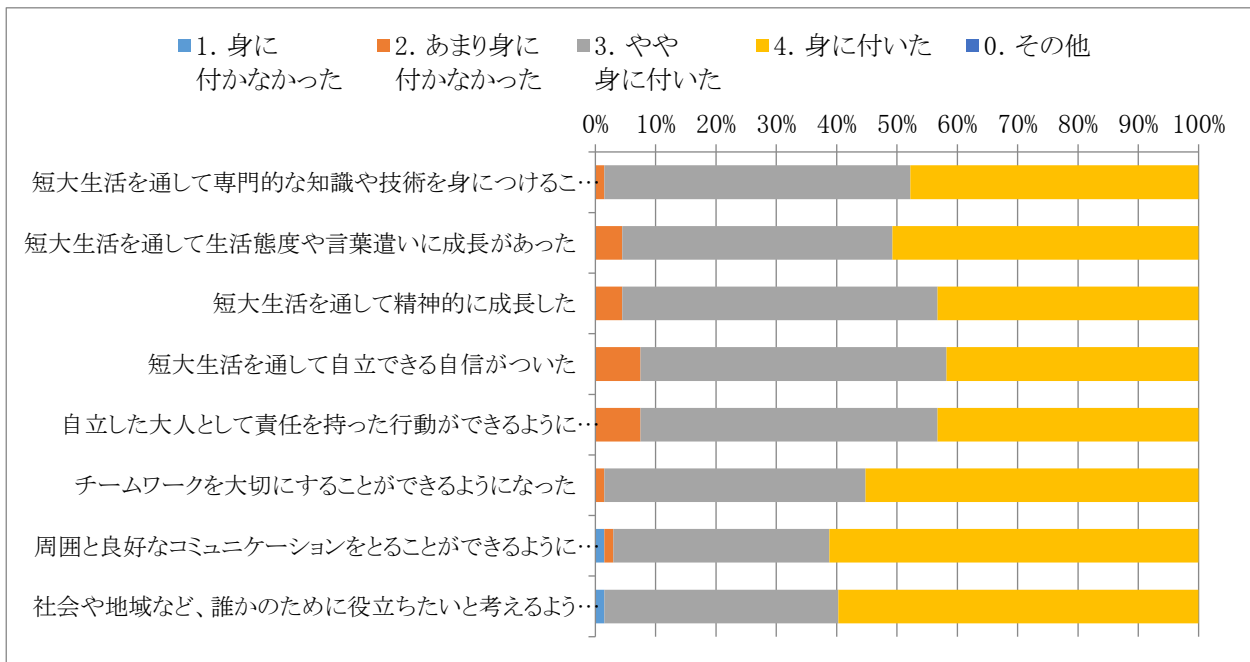
3 グラフ

1) 満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2) 自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4 まとめ

1) 満足度調査

(1) 状況と課題

① 「教務」領域

“満足群”を表す「3. やや満足」と「4. 満足」の占める割合は全体に高く、特に本学科が指導の特色としているピアノレッスンでは、「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」は99%と非常に高くなっている。その他の項目、「授業科目が充実していた」(97%)、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」(98%)、「運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた」(99%)も大変高い満足度となった。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」は95%でやや低い。

② 「学生生活」領域

概ね高い満足度となっている。特に「教員・職員・チューターのサポート体制」の満足度はいずれも96%を超える結果であった。特に「チューターのサポート体制」は100%となった。「友達作り」の項目では、コロナ禍のもとで学生生活を送ったが、96%の高い満足度であった。「入学してよかった」と思う学生の割合は、前年度に比べ2ポイント低下したが、95%と高いものであった。一方、「コロナ対応等に係るサポート体制」は、“不満足群”の割合が40%と高く、対応方法に課題が残った。

③ 「キャリアアップ」領域

「就職支援」「資格取得支援」共に96%の満足度となっている。特に「資格取得」については、「4. 満足」は66%と高い割合であった。総じて、キャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

④ 「自治会活動」領域

他の領域の満足度に比べて、この領域の満足度は低かった。この領域の活動は、学生個々の活動ではなく、学生全体での集団的な活動の要素があり、その組織運営の改善や参画意識の醸成について検討する必要がある。

⑤ 「施設」領域

いずれの項目においても90%を超える割合の学生が満足している。

(2) 要因分析

各領域の特徴的な事項について分析を行い、対策に反映させる。

「教務」の領域で「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」が99%と高い満足度となったのは、「初心者ピアノ指導の充実」が学科の指導を強く特色付けるものであり、常勤・非常勤の講師陣の指導力の高さを反映している。さらに、「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習」で保育力を伸ばすことができた」の項目の満足度が高いのは、学生の主体性に軸を置く「アクティブラーニング型の授業」が幅広く浸透してきたことや、教育実習・幼稚園実習が各2回あり、その経験を通して自身の成長を実感することができたことがうかがえる。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」については、どのような期待感をもって入学してくるのかの把握が必要であろう。

「学生生活」の領域では、コロナ禍のもとでの学修についての不満が見受けられる。具体的には、自分の瑕疵ではないのに実習期間を変更せざるを得なくなった場合にも、その期間中の授業が欠席となることに対する不満である。これは保育学科だけの問題ではないので、全学的に学生が納得できるような対応方法や説明を検討する必要がある。

「キャリアアップ」の領域では、様々なキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

「施設」の領域では、施設や設備全般について“不満足群”が22%と比較的多いが、施設の老朽化等が影響しているものと思われる。

(3) 本年度の対策

- 学科の指導の強みである「ピアノレッスン」は非常勤講師と連携し、引き続き高い指導力の維持に努める。
- 授業や行事の区切りのよいところで、学生が学修の成果を実感できる方法を一層工夫する。
- 一人一人の学生の状況をよく把握し、学生の思いを大切にしながら、学科全体で情報共有をする。
- 学年行事等において、学生の参画意識を高め、一体感、充実感や成長実感が得られるように創意工夫する。
- コロナ禍に係る欠席への対応に関しては引き続き検討し、学科としての考えを整理する。

2) 自己点検のまとめ

すべての項目において90%を超える高い自己評価結果であった。この結果から概ね学生生活を通して順調に成長していることがうかがえる。「専門的な知識や技術を身に付けることができた」の“肯定的評価”は99%と高く、卒業研究などで指導技術の習得を柱として取り組んできたことの成果であるといえる。

割合としてはあまり高くはないが、“あまり身に付かなかった”が7%の項目がある。それは「自立できる自信がついた」、「責任を持った行動ができるようになった」であり、この2つは内容として同質のものと考えられる。精神的な自立は学生の課題の1つであり、また、社会人として生活するためには「責任ある行動」ができることが必要不可欠である。このことを十分留意し、さまざまな学修場面をとおして、学生の成長を促していきたい。